

【南九州税理士会会長賞】

税という名の対価

別府市立別府西中学校

三年 日出山 伊吹

僕の母は、給料日がくると明細を見ながらため息をよくつく。給料は、働いた分をそのまま全額もらえるのではなく、税金が引かれているらしい。

税について考えることは今までほとんどなかったが、どんな税があるのか調べてみることにした。消費税・所得税・酒税・住民税・固定資産税・自動車税。たくさんあった中でも一番馴染み深いのは消費税。僕は漫画が好きでよく本屋に行くが、裏表紙に「税込」や「税抜」の記載をよく目にする。どちらかによって、財布の中の少ないお札とにらめっこする。働いて収入をもらえば所得税というものがついてくるが、お金を稼ぐ人ほど支払う額は増えるらしい。持ち家に住むとそれにも固定資産税という大きな税がかかってくるし、塾や習い事で送迎をもらう自動車やガソリンにも税がかかる。最近、ガソリンが値上がりしたというニュースはよく見るし、父はそのうち電気自動車に買い替えようかなと会社の人とも話すらしい。夏になるとビールをよく飲む母は、夏は酒税をよく払っていることで、体にもあまりよくないし、飲むことをやめたら、体にもお財布にもいいんじゃないかと思った。でも、日課のランニングのあとのお酒は美味しいらしく、それも当分無理だなと感じる。税と自分の生活を照らし合わせて考えると意外と面白いと思った。

コロナが流行して、仕事がなくなってしまったり、安定できなくなったり、みんなの生活はガラリと変わってしまった。そんな中でも給付金をもらうことができて助かる人がいることや、ワクチンを無料で受けさせてもらえることで、少なからず予防ができている。学校に行かずに授業を受けることを可能にしたタブレットも、無料で使えることができるなど、僕たちの生活もとても助かっていることが多いけど、これは僕たちがきちんと納税しているからこそできることなんだとわかった。

「つつい、ため息がでてしまうけど、納税の義務があるから、いざという時にみんな助かっているってことだね。」と、母と話した。

使われ方をよく知らない、納得できない部分もある税だが、今のこの世の中だからこそ税に対して有り難みを感じることができて悪いことばかりじゃなかったとも思う。これから一つずつ理解して納得しながら義務を果たしていこうと思う。